

教育



誰もが楽しく学び、幸せや生きがいを感じ、活躍できるまち



- ▶ 地域、家庭、学校など、様々な主体と連携し、市民の学びを通じたウェルビーイングの向上と地域を担い未来を創る人材の育成を目指します。
- ▶ 市民の誰もが経験や体験を通じて楽しく学ぶ機会を得て、生涯を通じて活躍できるまちを目指します。

- 生きる力を育む教育の推進
- 安全・安心で質の高い教育環境づくり
- 生涯を通した多様な学びの支援
- 歴史・伝統文化の保存・活用と継承

2025

2029

定住・移住・仕事

安全・安心

子育て

教育

健康・福祉

市民協働

環境

都市

産業

行政

50

生きる力を育む教育の推進

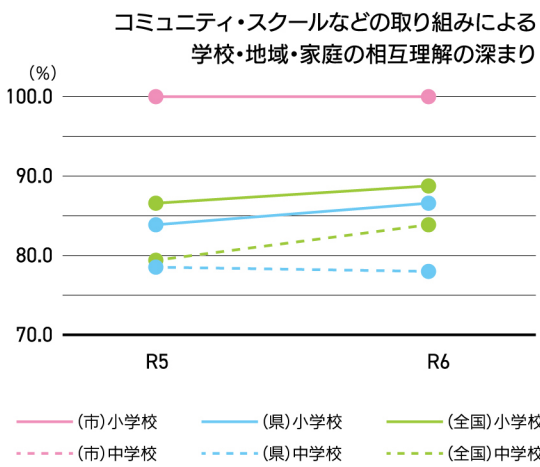


- ▶ 子どもたちが楽しく、主体的に学び、自ら思い描く幸せの実現に向かっている
- ▶ 学校・家庭・地域が連携・協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えている
- ▶ 子どもたちが誰一人取り残されず、学びを通じてウェルビーイングを高めている

現状



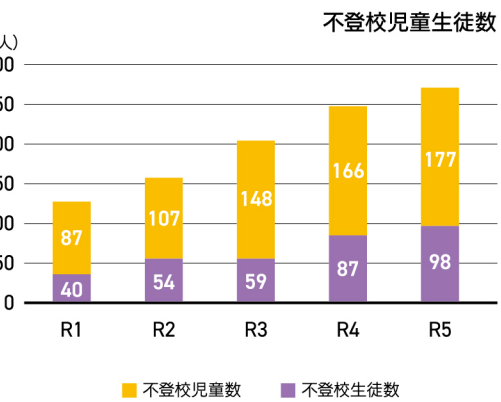
- ▶ 義務教育段階で求められる資質や能力などを確実に身に付けられるよう、効果的な学習指導、教育活動の充実を図っています。
- ▶ 小中一貫教育を基盤に学校・家庭・地域が連携する小中一貫コミュニティ・スクールを全市で導入し、地域全体で子どもを育てています。
- ▶ 特別な支援が必要な児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒が年々増加しています。さらに、いじめや不登校の件数も増加傾向にあり、専門的支援や相談体制の充実が求められています。
- ▶ 読書活動や様々な体験などを通じて子どもたちの豊かな心や探求心を育てるため、学校図書館や電子図書館を活用し、授業支援や読書推進に取り組んでいます。



課題



- ▶ 子どもたちが学校での学びを社会で生かせるよう、知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性を育む必要があります。
- ▶ 小中一貫コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進により、地域社会が連携・協働した教育の一層の充実を図る必要があります。
- ▶ 誰一人取り残されず、すべての子どもたちの可能性が引き出される共生社会の実現に向けた教育環境を整備するため、これまで以上に連続性のある多様な柔軟な支援体制の構築に取り組む必要があります。
- ▶ 児童生徒の読書力、情報活用能力を育成するため、デジタル社会に対応した環境整備や学校図書館の多面的活用の推進など、さらなる読書支援に取り組む必要があります。



主な取り組み

- 子どもたちの生きる力の育成
 - 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 - 子どもたちが楽しみや幸せを感じられる教育の提供
- 学校・家庭・地域の連携による教育の推進
 - 地域を担い未来を創造する人材の育成
 - 小中一貫コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
 - 家庭教育支援の充実
- 多様な教育ニーズへの対応
 - 特別支援教育の充実
 - いじめ・不登校対策の推進
 - 家庭環境や経済状況によらない学びの確保
 - 日本語指導が必要な児童生徒の支援
- 学校図書館の多面的活用
 - 児童生徒の発達段階に応じた自主的な読書活動の推進
 - 児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成



成果指標 (KPI)

指標名	現状	中間目標 (R11 年度)	最終目標 (R16 年度)
課題の解決に向けて自分から取り組んだ児童生徒の割合	児童 75.2% 生徒 80.8%	児童 77.0% 生徒 82.0%	児童 79.0% 生徒 83.0%
地域や社会をよくするために何かしたいと思う児童生徒の割合	児童 77.3% 生徒 74.4%	児童 79.0% 生徒 76.0%	児童 81.0% 生徒 78.0%
学校に行くのは楽しいと思う児童生徒の割合	児童 83.8% 生徒 83.8%	児童 85.0% 生徒 85.0%	児童 86.0% 生徒 86.0%

〈関連する計画〉 #教育大綱 #こども計画

※ウェルビーイング… 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

※生きる力… 予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力。確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切とされる。

安全・安心で質の高い教育環境づくり



- ▶ 地域の核となる新しい学校づくりが進み、新しい時代の学びが実現している
- ▶ 学校給食や食育を通じ、児童生徒が心身ともに健康で郷土への誇りと愛着を持っている

現状



- ▶ 児童生徒が安全・安心で質の高い教育環境で学べるよう、計画的な学校施設の改修や改築、空調などの設備整備に取り組んでいます。
- ▶ 新しい時代の学びを実現しつつ地域の安全・安心を確保するため、体育館の空調設備整備など、地域とともにある学校づくりを進めています。
- ▶ 社会全体のDXが急速に加速する中、本市の教育環境においてもデジタル化を積極的に進め、授業や学習へのICT活用に加え、校務支援などを行っています。
- ▶ 児童生徒の健康な心身を育むため、自校式による安全・安心な給食を提供するとともに、地域食材や郷土料理を活用した食育を推進しています。

課題



- ▶ 校舎などの老朽化の進行や照明のLED化、トイレの洋式化など社会情勢の変化に対応するため、計画的で適切な施設・設備の整備や更新が必要です。
- ▶ 地域との連携や協働により地域の核となる学校づくりを進めるため、地域にある公共施設などとの複合化・集約化を検討する必要があります。
- ▶ DXが加速していく中、教育環境におけるICT活用の「日常化」を推進するとともに、さらなる校務DXにより教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指す必要があります。
- ▶ 心身の健康に加え、給食や食育を通じて郷土愛を育み、生きる力につなげるため、地域や家庭と連携した食育や地産地消の推進が必要です。



主な取り組み

- 安全・安心で質の高い学校施設・設備の整備
 - 学校施設長寿命化計画の策定、ZEB化などの検討
 - 地域防災の拠点としての学校施設・設備の整備
 - 地域の核となる学校施設の整備に向けた複合化・集約化の推進
- ICT環境の整備による教育DXの推進
 - 児童生徒の情報活用能力の育成
 - 情報機器の整備と校務DXの推進
- 生きる力を育む学校給食の推進
 - 衛生管理及び食物アレルギー対策を徹底した安全で安心な自校式給食の提供
 - 学校における食育の推進及び各教科と食育をつなげる学習の展開



郷土料理を取り入れた学校給食の様子



体育館空調を整備した城山中学校の外観



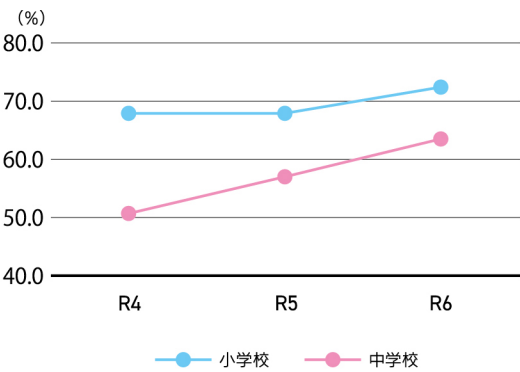
成果指標 (KPI)

指標名	現状	中間目標 (R11 年度)	最終目標 (R16 年度)
施設の複合化・集約化が進んだ 学校施設数 (累計)	1 校	2 校	3 校
学校給食における地産地消の推進 (宗像地区産野菜利用率)	20.9%	25.0%	30.0%

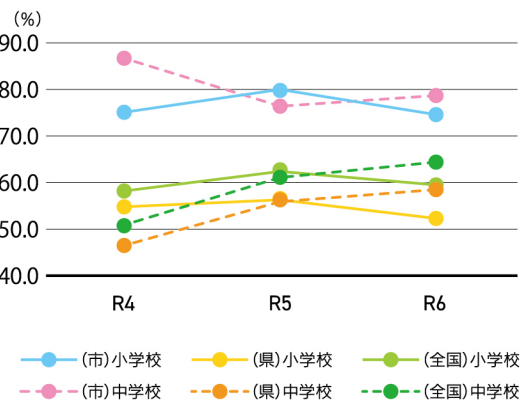
〈関連する計画〉 #教育大綱 #こども計画 #公共施設アセットマネジメント推進計画 #地球温暖化対策実行計画

※校務DX … 校務とは学校の仕事全体を指し、学校がその目的である教育事業を遂行するため必要とされるすべての仕事のことをいう。校務DXとはデジタルを活用することで教職員などの働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指すことをいう。

学校トイレ洋式化率



週3日以上授業でICTを活用する児童生徒の割合



※ZEB … ネット・ゼロ・エネルギー・ビル略で、「ゼブ」と呼ぶ。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを指した建物のことをいう。

生涯を通した多様な学びの支援

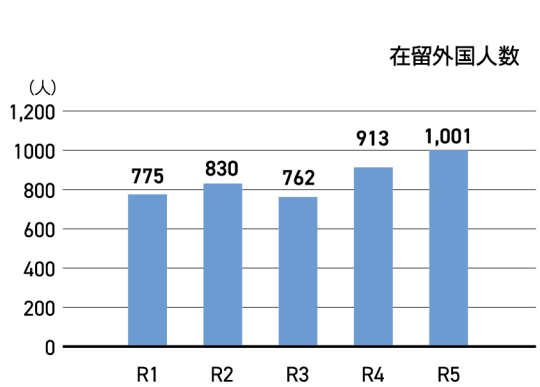


- ▶ 市民が生涯を通して主体的に学びを継続でき、その成果を地域で発揮することができる
- ▶ 将来の予測が困難な時代において、グローバルな視点を持って地域社会の活性化を担う人材が育ち、活躍している

現状



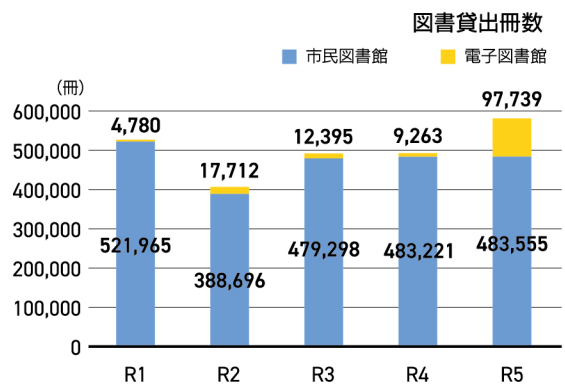
- ▶ 人生100年時代を見据え、リカレント教育やリスキリングが重要視される中、学びや教育に対するニーズが多様化しています。
- ▶ 社会環境の変化や雇用の多様化・流動化が急速に進む中、勤労観・職業観を育むキャリア教育の重要性が高まっています。
- ▶ 市内の外国人居住比率が高まっており、多様な言語や文化などに触れる機会が増加しています。
- ▶ ライフステージに応じ、いつでもどこでも読書を楽しめる環境づくりを進めていますが、ライフスタイルの多様化などにより、市民図書館の利用状況が伸び悩んでおり、特に若年者の利用率が低い傾向にあります。



課題



- ▶ 多様化する学習ニーズに応えるため、既存の学習機会に加え、体験や交流を通じて楽しく誰もが学べる機会を創出する必要があります。
- ▶ 学校教育におけるキャリアプランニング能力向上の取り組みを補完・強化するため、産学官民連携により様々な社会体験・職業体験の機会を創出する必要があります。
- ▶ 地域への愛着や誇りをもちつつ、グローバルな視点から未来を創ることができる人材の育成が求められています。
- ▶ 生涯にわたる読書習慣を形成するため、乳幼児期から子どもが自ら読書に親しめるような取り組みを進めるとともに、多様な市民ニーズに沿ったサービスの充実や情報発信の強化が必要です。



主な取り組み

- 生涯学び、活躍できる環境の整備
 - 働きながら学べる環境の整備
 - 大学などと連携したリカレント教育やリスキリングの推進
 - 学びを地域で生かすことができる活躍機会の創出
- グローバル社会における人材の育成
 - 各年代に応じた外国語教育支援事業の推進
 - 市民が外国人などと交流できる機会の充実
- キャリア教育・職業教育の充実
 - むなかた子ども大学を中心とした産学官民連携による教育機会の充実
 - 発達段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育の推進
- 市民の読書活動の充実
 - 子どもの発達段階に応じた多様な読書の機会の提供
 - 誰もがいつでも読書に親しむことができる市民図書館サービスの充実



成果指標 (KPI)

指標名	現状	中間目標 (R11 年度)	最終目標 (R16 年度)
市民一人当たりの図書貸出冊数	6.01 冊	6.50 冊	7.00 冊
むなかた子ども大学を受講する児童生徒数 (年間のべ人数)	10,823 人	12,000 人	13,000 人

〈関連する計画〉 #教育大綱 #こども計画



※リカレント教育とリスキリング … リカレント教育は、働く個人が能動的に学ぶことを示し、リスキリングは従業員の学びを企業が主導で行い、社会情勢などの変化に対応できる人材を育成することをいう。

※むなかた子ども大学 … 教育関係者・企業・団体・市民・行政などが総がかりで、子どもの興味・関心を深掘する学びを提供し子どもたちが様々な分野にわたって、「本物から学ぶ」、「本物を体験する」ことを通し、可能性を広げたり発見したりして、興味・関心を「志」へ変容させる場。

歴史・伝統文化の保存・活用と継承



- ▶ 市民が本市の歴史や伝統文化に対する理解を深め、誇りや愛着を感じている
- ▶ 世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が有する価値を損なうことなく、次世代に引き継がれている

現状



- ▶ 平成29年7月に「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界文化遺産に登録されました。その顕著な普遍的価値を次の世代に引き継いでいくため、保存と活用に取り組んでいます。
- ▶ 市内にある多くの文化財は地域の人々の誇りとなっており、文化財保存活用地域計画に基づき、適切な保存と活用に取り組んでいます。
- ▶ 世界遺産や歴史文化の多様な魅力や価値を十分に伝えきれておらず、担い手不足を一因とした継承が困難な伝統文化があります。
- ▶ 世界遺産の中核となる構成資産である「沖ノ島」のことであり、体感するため、ガイダンス施設として海の道むなかた館や大島交流館を活用した情報発信を行っています。

課題



- ▶ 世界遺産登録時と比較すると徐々にその関心度が低下しているため、様々な関係者と連携した情報発信を行うなど、その価値を理解してもらう取り組みが必要です。
- ▶ 近年、縮小傾向にある地域の祭りや行事などの伝統文化について、その価値や魅力を改めて後世へと伝えていくための担い手の育成・確保に向けた取り組みが必要です。
- ▶ 世界遺産や歴史文化の保存と活用にあたって資金や人材が不足するケースが増えており、税収以外の財源確保の取り組みや、担い手となる世代を超えた人材育成が必要です。
- ▶ 来館者やリピーターを増やし、情報発信力を強化するため、歴史・文化を中心とした既存コンテンツに加え、宗像の食・自然体験などの複合的な魅力を伝える取り組みを行う必要があります。

主な取り組み

- 歴史・伝統文化の保存・継承
 - 継続的なモニタリングなどによる世界遺産構成資産の保存・管理
 - 地域における歴史文化・伝統文化の継承活動への支援
 - 児童生徒へのふるさと学習を通じた次世代の担い手の育成
- 歴史・伝統文化の活用
 - 文化財の保存、展示、デジタルによる情報発信
 - 市民団体、他自治体との連携を通じた魅力的な歴史文化体験イベントの開催
 - 市の複合的な魅力を伝える情報発信の推進とコンテンツの強化
 - 保存と活用に必要な資金や人材確保に向けた取り組みの推進



海の道むなかた館での体験イベント（門松づくり体験）



地域における伝統行事の継承（「八所宮神幸祭」の練習風景）

成果指標 (KPI)

指標名	現状	中間目標（R11 年度）	最終目標（R16 年度）
海の道むなかた館の年間来館者数	116,176 人	130,000 人	140,000 人
世界遺産構成資産への来訪者数	814,681 人	860,000 人	900,000 人

〈関連する計画〉 #教育大綱 #こども計画 #文化財保存活用地域計画 #歴史的風致維持向上計画

